

(七田)挨拶

(有野)第1回運営協議会について

・評価項目についての意見 ・各校からの近況報告

(曾根崎)本日の流れについて (森)授業は、加点法で見ていただけるとありがたい。

授業訪問の感想

(木村)どのクラスも教師が児童に問いかけるなど、児童との対話を重視していた。

(森)どのクラスも集中していた。先生方が明るい。特学は、子供同士が学び合う姿があり、協働的な学びが見えた。また、ICTを道具として活用し、電子黒板とノートに貼っている地図とを比べ、うまくめあてにつなげている学級があった。このように、ICTを道具としてどんどん使えるように、良い使い方を紹介して広げていくことが大切である。

(池田)生徒たちの表情を見ていたら、皆集中しており、一人も諦めている子がいなかった。

(美和)先生方が工夫して授業している。すごく落ち着いて授業している。

活発に意見が出ているが、はめをはずす子も見られた。経験の浅い先生が少し心配である。

議事

1 学園の教育目標の具現化に向けて

<協働部>

(木村)学園目標「地域を愛し、自分で考え自分で行動する子供の育成」はどのようにつくられたのか。

(大淵)評議委員会でアンケートをとることから始め、地域の意見を伺いながら設定した。初めは「自分で考え自分で行動する子どもの育成」だけだったが、次のCSで「地域を愛し」が加わった。

(木村)ずっとこの目標でいいのか。教育目標を見直すことも必要なのでは？生徒の意見を取り入れることも考えられる。

(大淵)現在、「日の里カリキュラム」に関して、3年は「たから探検隊」の導入段階。4年生は「花いっぱい」で、プランターに絵を書いている。5年の高齢者疑似体験の時に学園サポーターをお呼びした。

(森)日の里では既に充実した活動があるので、今後、活動は増やさないよう心がけるべき。今やっていることを推し進める。目標に対する振り返りを強化し、保護者も含め目標につながったか意識することが重要である。

(大淵)資源回収が落ち込んでいる。4年の資源回収の学習も学園目標につなげ、「自分で考え行動する」学習を進めている。

(木村)朝の時間で地域の方の高齢者と触れ合える時間をとったりできないか。

(森)協働活動は増やさないが、質を向上させる。できるだけ地域の方との触れ合いの時間を工夫する。

<教育支援部>

(曾根崎)学園サポーターが3年目。登録数を増やすことが課題である。遠慮しないで子供の為に使ってほしいと声をかけ、活用してもらおう。3校連絡会でワールドカフェについて話し合う。地域とのつながりがより深まるように計画している。

(青谷)9月に保護者、地域、先生みんなが参加できるワールドカフェを企画している。

<地域貢献部>

(栗原)「みち遊び」等、教師も顔を出すことがあるが、地域が責任をもってやるということが大事。地域の教育力が高まる。生徒が地域のお年寄りにパソコンの使い方等を教えに行くことも考えられる。

(森)先生が学校の地域活動をするのはダメ。そうすると、学校教育になる。地域で子どもが活躍する。地域の力を上げる。先生は参加してもよいが、強制はダメ。先生は土日に頑張った子を褒めてやればよい。

2 学校関係者評価

(曾根崎)評価項目は5つに絞っている。

3 近況報告

(栗原)9年生が防災で阿蘇に1泊2日で行った。南阿蘇中の生徒との交流学習や震災遺構の見学等を行った。今年で2年目になる。

(森)熊本はCSが盛んになっている。

(藤原)「みち遊び」から、「ストリートパーティ」に名前を変更した。夏休みに中学校でネパールカレー調理実習を行う。

(森)報道につなげた方がいい。教育委員会の福祉課と「あったかの日」はつながっているか。つながっていないなら、共有した方がいい。

(木村)地域学校協働活動を回覧板で配布してもらえるようになった。アンケートについては、第5回の運営協議会で結果を示してつなげていきたい。「CoCokara 日の里」は今年度から館長が変わり、宮崎陽子さんになっている。

(北岡)次回、アンケート前期の結果からの考察を行う予定。